



宮城県立古川支援学校PTA会報 地域配布版第17号

おおぞら

発行

平成29年12月1日

宮城県立古川支援学校PTA
〒989-6203

大崎市古川飯川字熊野87

TEL 0229-26-2338

<http://furuyou.myswan.ne.jp>

大崎地区1市4町にお住まいの皆様 こんにちは！古川支援学校です！

古川支援学校は、昭和60年4月「宮城県立古川養護学校」として開校。平成21年4月に校名を「宮城県立古川支援学校」と改称し、本年で33年目を迎えました。

今年度は小学部52名、中学部49名、高等部85名、合計186名の児童生徒が、将来のそれぞれの自立と社会参加に向けて、日々の積み重ねを大切にしながら学習しております。今年も、子どもたち一人一人が自分のもてる力を発揮して活躍している様子をご紹介します。

笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢いっぱい



今年もご声援・ご協力 ありがとうございます

古川支援学校PTA会報「おおぞら」地域版の発行に当たり、地域の皆様のご理解とご協力に、厚く感謝申し上げます。

自分の本誌への執筆は五度目になります。毎回同じことを考えながらペンを走らせています。それは「親が先に死ぬ」ということです。親なき後の子どもたちのことを思い、我々PTAも、毎年発行しているこの「おおぞら」地域版やちらし配りなどいろいろな活動を行っています。そして子どもたち自身、先生や支援者の方々の力を借りて精一杯の努力をしています。

今は、二十年前、十年前とは比べものにはならないほど地域の皆様のご理解、ご支援を頂いております。ゆっくり成長していく子どもたちを今後とも温かい目で見守っていただきますようお願い申し上げます。



宮城県立
古川支援学校
PTA会長
佐々木幸治

親なき後の子を思い

古川支援学校ってどんな学校？



**どうやって通学していますか？
1学級は何人で担任の先生は何人ですか？**

**古川支援学校は、障がいをもつ子どもたちのための学校です。
一人一人の豊かな社会参加を目指して、個に応じた適切な発達支援を行います。**

スクールバス／保護者送迎／自力通学

大崎地域1市4町から通って来る児童生徒のため、10台のスクールバスが走っています。中には、1時間以上かけて通っている児童生徒もいます。リフトが付いているスクールバスもあり、車椅子でも安全に乗り降りできます。

保護者の送迎で通学している児童生徒もいれば、高等部では、将来の就労などに備えて、自転車や路線バス、JRを利用しながら毎日自力で通学している生徒もいます。

1クラスの人数

年齢に応じた学級で学習しています。小学部では、今年度は5～6人のクラスに3人の担任、7～8人のクラスに4人の担任です。

中学部では、6人のクラスに2人の担任、7～9人のクラスに3～4人の担任です。

高等部では、6人の生徒に2人の担任、7～9人の生徒に3人の担任です。

日常生活の指導

着替えや衣服の整理、食事や掃除など日常生活に必要な基本的な事柄を、学校の一日の生活の流れに沿って学習しています。

自立活動

障がいの状態や特性に応じた適切な運動や諸感覚への刺激を通して、児童生徒の健康維持と身体機能の改善及び向上を図ります。

生活単元学習

実際の生活場面での活動や体験を通して、これからの生活に必要な事柄を身に付けていく学習をしています。

国語・算数(数学)

国語・算数(数学)は、一人一人の課題に応じて個別や小さな集団で行います。音楽(中学部)、体育(中学部、高等部)では、集団で学ぶ楽しさを味わいます。

遊びの指導

日常生活に必要な言葉や数量に関して、遊びやゲームを取り入れたり、日常生活に即した場面を設定したりするなどして、楽しく学習をしています。(小学部)

作業学習

陶芸、木工、園芸・環境整備、手工芸等のいろいろな作業を通して、家庭生活、社会生活及び職業生活の必要な力を育みます。(中学部・高等部)

総合的な学習の時間

地域の清掃活動や近隣の中学校との交流学习など、地域の人や自然とのふれあいの中でより主体的に学ぶ学習です。(中学部・高等部)

作品展から

毎年、2月中旬に結絶の館で行います。
※今年度は2/14～19
写真は、昨年度の作品です。



どんな学習をしていますか？

主な指導の形態

小学部／中学部／高等部

小学部では、食事や着替えなど身の回りのことが一人でできることや身近な人たちと上手に関わることができることを目標にしています。

中学部では、集団との積極的な関わりの中で生活経験を広げていきます。

高等部では、卒業後の生活に備え、現場実習等の実社会での体験的な学習を大切にしています。

訪問教育

障がいの状態により、登校して学習することが困難な児童生徒には、教師が家庭を訪問し授業を行っています。体調が良いときなど保護者の送迎で登校して学習するときもあります(スクーリング)。

今年度は小学部児童3名、中学部生徒1名が在籍しています。



どんな行事がありますか？

学校内の行事の他にみんなが楽しみにしている修学旅行、宿泊学習などたくさんあります。また、PTAが中心となって計画した「花いっぱい大作戦」(5月)「楽天親子ツアー」(7月)「親子ふれあいデー」(9月)「文化祭バザー」(11月)などもあります。

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

古川支援学校の一年

- ・始業式
- ・入学式
- ・授業参観
- ・交通安全教室
- ・大運動会
- ・校外学習(小)(中)
- ・現場実習(高)
- ・学校見学会①
- ・志田小交流会
- ・学校見学会②
- ・宿泊学習(高)
- ・授業参観
- ・水泳教室(中)
- ・水泳教室(高)
- ・親子芸術鑑賞会
- ・水泳教室(中)(高)
- ・修学旅行(小学部：岩手)(中学部：東京)(高等部：大阪)
- ・校外学習(小)
- ・前期終業式
- ・後期始業式
- ・宿泊学習(小)(中)
- ・西中交流学习
- ・現場実習(高)
- ・校外学習(小)
- ・文化祭
- ・志田小交流会
- ・宿泊学習(高)
- ・乗務員さん感謝の会
- ・授業参観
- ・調理員さん感謝の会
- ・高等部入学者選考
- ・ボウリング大会(高)
- ・入学説明会
- ・作品展(結絶の館)
- ・卒業生を送る会
- ・卒業式
- ・授業参観
- ・修了式

大運動会

校外学習

修学旅行

校外学習「りんご狩り」(加美農高)

文化祭

PTA行事

花いっぱい大作戦

楽天応援ツアー

バッチ・グー大作戦展開中!! ハートバッチへのご理解を よろしくお願いします👍



9月20日(水)イオン
スーパーセンター加美店
さんの店舗入口をお借り
して、石巻支援学校PT
Aの方々と合同で「ちら
し配り」を行いました。

「我が子に障がいがあることを周囲の人に理解してもらい、温かく見守ってほしい」という願いで古川支援学校PTAがハートバッチを作りました。

ハートバッチで伝えます。障がいがあることを!

本校には外見からは障がいがあるかどうか分かりにくい児童生徒が在籍しています。そのような児童生徒の中には、物事の理解や行動に時間がかかったり、時には、障がい特有の言動が見られたりします。そのため、周囲の人たちから誤解や偏見の目で見られることも少なくありません。

例えば

- びよんびよん飛び跳ねる
- 手のひらをひらひらかざす
- 独り言やうなり声をあげる
- 身体をくるくる回転させる

などの行動も、その子ども独特の楽しみ方であったり、不安を回避する方法であったり、自分の思いを表現するための手段であったりします。その理由を伝えると、「ああそうか」と納得していただけることも多いのですが、行く先々で周りの皆さんに「この子には障がいがある」と説明し続けるわけにもいきません。

ハートバッチをお分けします

地域の障がいのある幼児児童生徒さんや成人になった障がい者の方にも、ぜひ、ハートバッチを使っていただきたいと思っています。
一枚三七〇円でお分けいたしますので、お気軽にお問い合わせください。

○連絡先○

宮城県立古川支援学校PTA事務局
電話 〇二二九一二六一三三三八

「我が子に障がいがあることを周囲の人に理解してもらい、温かく見守ってほしい」という願いで親の願いから「ハートバッチ」を作成しました。このバッチを付けた人を見掛けたら、障がいがあることをご理解いただき、温かく見守っていただければと思います。どうぞよろしくお願いたします。

「我が子に障がいがあることを周囲の人に理解してもらい、温かく見守ってほしい」という願いで親の願いから「ハートバッチ」を作成しました。このバッチを付けた人を見掛けたら、障がいがあることをご理解いただき、温かく見守っていただければと思います。どうぞよろしくお願いたします。

宮城県立古川支援学校PTA
連絡先:大崎市古川藤川字熊野87
TEL 0229-26-2338

文字のあるタイプ→



←文字のないタイプ

お陰様で本校では、昨年度は小学部二十四名、中学部七名の児童・生徒が、自分の居住地にある小・中学校の生徒との交流授業に参加してきました。また、小学部児童は隣接する志田小学校と、中学部生徒は古川西中学校の三年生と交流学習を行うことができました。

障がいのある人と関わることは、人間が本来もっている優しさを発揮するチャンスになると思っています。人は誰でも障がいを負う可能性があります。交通事故で肢体不自由になることもあれば、小さいときのインフルエンザが原因で脳に障がいを負うこともありえます。障がいのある人もない人も、協力し合って幸せに暮らせる共生社会を実現させるために、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

本校の児童生徒百八十六名(小学部五十二名、中学部四十九名、高等部八十五名)は、新しい学習に挑戦する勇氣と感謝の気持ちをもち、毎日の学校生活に取り組んでいます。

さて、現在、東北地区の知的障害特別支援学校では、インクルーシブ教育システムの構築に向けて様々な取組を行っております。共生社会を実現する第一歩として、障がいのある人となりが自然体で関わることをできるよう、地域の子どもたちが一緒に学ぶ機会を増やし、大人になってからも自助・共助の精神を忘れずに、誰もが幸せに暮らせる社会にするための下地を作る取組です。



宮城県立古川支援学校校長
藤川 卓志

大崎地区一市四町にお住まいの皆様方には、日頃から本校の教育活動に対しまして、深いご理解と暖かいご支援を頂いておりますことに心から感謝申し上げます。

共生社会実現をめざして